

# シャープ(株)三重工場 ステークホルダーダイアログ開催報告

## 地域住民とダイアログ、94.4%が「有意義」と回答



平成 24 年 5 月 15 日、シャープ(株)三重工場にて「環境情報誌に関する意見交換会（ステークホルダー・ダイアログ）」が開催されました。今回のテーマは、同工場が発行している「環境・社会貢献活動情報誌」を地域住民と意見交換しながら、ともに振り返るといふものです。

今回は、同工場と NPO 法人 Mブリッジの共同運営で行われ、従業員、関連企業、地元 NPO、県職員、町職員、大学名誉教授、地元環境団体、学生、銀行、一般企業、地元住民など、18 名が参加しました。今回の特集では、ステークホルダー・ダイアログの当日のようす、参加者から出たアイデアなどをご紹介します。

### 当日の 内容

## 環境活動の展開、対話で探った3時間

#### <当日のスケジュール>

#### 13:30 はじまりの挨拶・注意事項

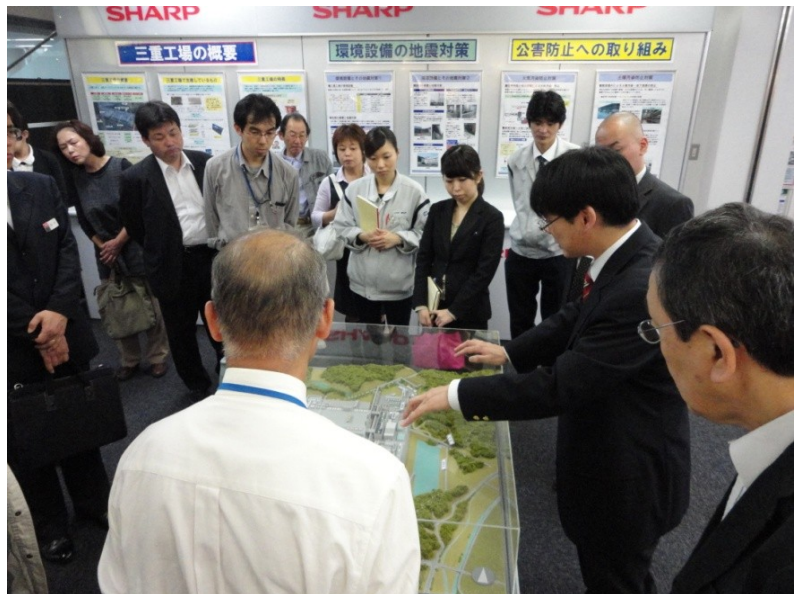
三重環境安全推進センターの国米所長からご挨拶。注意事項などをお伝えしました。

#### 13:45 三重工場の環境・社会貢献活動の紹介

意見交換に入る前段階として、参加者に三重工場の環境・社会貢献活動に理解を深めていただくために、三重環境安全推進センターの宮田勝弘さんよりこれまでの活動、三重工場の地域への思いをご紹介します。続いて、活動のようすを写真やパネルを用いて展示した「環境展示室」を見学。浄化された工場排水で元気に泳ぐウナギの水槽を実際に見て、環境負荷軽減の取り組みをより深く感じる機会となりました。

#### 14:20 ステークホルダー・ダイアログ

5～6名ずつで4グループに分かれ、意見交換を実施しました。メインの進行役は、ワークショップデザイナーであるMブリッジスタッフが担当。また各テーブルにもMブリッジスタッフと三重工場の従業員が1名ずつ入って、参加者をサポートしました。まずは、固い雰囲気をはぐすためにグループ内での自己紹介とコミュニケーションゲーム。よりよい意見交換を促すために、参加者が気軽に発言でき、チーム内の協力体制を作れるようなゲーム)を実施しました。



写真上/三重工場の環境活動を社員手作りのパネルで紹介している「環境展示」を見学。参加者は熱心に聞き入っていました。写真左/各グループ内では、Mブリッジスタッフがまとめ役、シャープ社員が板書を担当しました。写真右/開始時には、Mブリッジと三重県からも挨拶をしました。

その後、情報誌を読んだ感想を参加者がふせんに書き出し、それらのふせんをホワイトボードに貼りだしていきましました。後半は、それらの意見をもとに、参加者が三重工場の地域貢献活動に対して「新しい提案」をするというテーマで話し合いました。(各グループの意見は次頁を参照)最後は、各グループで出た意見を発表し合い、終了となりました。

ダイアログで  
出たご意見

## 地域志向のアイデアがたくさん！ 協働意識高まる



### Aチームからの提案 地元高校とのコラボ提案

取引先企業や学生、地元住民によるこのチームでは、多気町の相可高校とのコラボ企画を提案。グリーンカーテンで作ったゴーヤを食物調理課で食材として活用し、メニューレストランで提供するなどの意見がでました。また工場の一般開放を望む声も多く、「工場のことを知りたい」という気持ちがうかがえました。

### Bチームからの提案 地域とのより密接な連携を

地元の企業、住民などによるこのチーム。社員がもっと地域の活動に出向く機会を増やしたり、三重工場のボランティア活動に近隣企業の職員も一緒に参加してみたいと、密接な関係づくりを期待する意見が出ました。子ども向けの理科の実験教室を開いてはというアイデアも出ました。



### Cチームからの提案 町の防災のよりどころに

地元住民などで構成されるこのチーム。設備の地震対策が素晴らしいと話が膨らみ、緊急時の避難所として開放してはどうか、などの提案がでました。「また工場を使って、地元住民や消防団と一緒に防災訓練をするとうい」などの提案も住民の方から上がっていました。



### Dチームからの提案 工場見学で地域活性化を！

他地域の企業・NPO によるこのチームは地元のおすすめスポットとツアー化した工場見学を提案しました。これからの高齢化社会へ対応して、バーチャル上での工場見学で注目を集めては、などのユニークな意見も出ていました。またシャープ 100 周年を記念して、手軽に読めるダイジェスト版の情報誌を制作してみても、などのアイデアも出ていました。



## 参加者の声

参加者アンケートでは、94.4%が「意義があった」と回答いただきました。一部の参加者のコメントをご紹介します。



**服部秀樹さん**  
百五銀行多気支店支店長

近くで仕事をしながら、三重工場の活動をよく知らなかったのが、知ることができ、よかったです。たくさん環境活動をされていることに興味しました。相互に意見交換できて、有意義でした。



**中村航輔さん**  
皇學館大学3年生

参加するまで、堅い場なのかな？と思っていましたが、みんなでワイワイ意見交換できたのが、楽しかったです。大学生として、企業の社会貢献の取組を知り、とても勉強になりました。



**高橋三鈴さん**  
住友電装株安全環境部

ダイアログの雰囲気づくりが素晴らしかったです。わが社も工場のすぐ近くに民家があるので、住民は少なからず不安を感じているかもしれない。こんな形の意見交換をわが社も真似したいと思いました。



**上田宏美さん**  
地域住民

工場の目の前の団地に住んでいます。排水のことは気になっていましたが、きちんと処理されていることを知り、安心しました。このように知る機会をいただけたのはすごくありがたいです。

# 参考資料

## Q. ステークホルダーダイアログとは？

### A. 互いを知り、理解を深め、同じ方向を向く「対話」のことです。

ステークホルダーは「利害関係者」のこと。顧客、従業員、取引先、地域住民、株主など企業が事業活動を行うなかで、直接・間接的に関わりがある人を指します。ダイアログは、直訳すると「対話」のことです。

地域から、対話の場を求められていても、それに対して活動ができていない企業は多くはありません。アンケートボックスの設置や、WEBの問い合わせフォームだけでは拾い上げられない意見が、社会には無数にあります。そういったステークホルダーの意見を、見える化できる方法が「ダイアログ」。例えば、多くのCSR報告書は、ステークホルダーの視点が反映されずに発行され続けていますが、報告書の改善にステークホルダーの声を取り入れことで、双方向のコミュニケーションが生まれ、本当の社会のニーズを知ることができます。結果的にCSR活動の品質向上につながります。

## ●特定非営利活動法人Mブリッジについて

三重県全域で活動しているNPO法人。「松阪市市民活動センター」の指定管理のほか、CSRの推進に力を入れている。地域貢献担当者向けの勉強会の実施、CSRの広報サポートもしており、非営利の第三者機関としてCSRのPRは企業からも好評をいただいている。「みえNPOネットワークセンター」の理事も務める。平成24年度は、三重県と連携しながら企業とNPOが連携したダイアログ（対話）の仕組みづくりを推進している。（委託事業の「平成24年度NPO等からの協働事業提案（新しい公共の場づくりのためのモデル事業）」として実施）今回のダイアログは、「三重県モデル」作成に向けたモデルケースでもある。

●NPO法人Mブリッジ HP <http://m-bridge.jp/>